

ヒラタアオコガネ兵庫県下の分布状況 (兵庫県甲虫相資料・176)

高橋 寿郎

ヒラタアオコガネ *Anomala octiescosta* (Burmeister, 1844) は体長 9.5-12 mm のやゝ小形通常緑色の美しいコガネムシであり主として西日本(本州, 四国, 九州, 屋久島)にいる。

日本のコガネムシの中では可成り古く記載された種で原記載 (Handb. Ent. IV, 1, p.243, 1844) には産地名が記されていないがその頃から多くいた種なのであろう (原記載は *Phyllopertha* 属)。1875年に Waterhouse は "Japan. A common species; it appears with the first warm days of spring," (Trans. ent. Soc. London, p.108, 1875) と書いている。

古い文献には済州島, 朝鮮の分布も出ているが現在の知見では対馬にツスマスジコガネ *A. sieversi* Heyden を産し, この種が済州島, 朝鮮に分布しているのであってヒラタアオコガネの方は日本特産種のようなのである (筆者の手許に朝鮮産ツスマスジコガネ 3♂があるが上翅は緑色がより鮮かであり, 上翅の縦隆線があまり隆まらずどちらかと云えばヒラタアオコガネより大きい)。

ところでこのヒラタアオコガネが兵庫県下ではほとんど産地が知られていない。川西市笹部〔仲田, 1978, 1982〕, 城崎郡杉ヶ沢〔高橋, 1975, 1981〕に夫々一例がある以外は神戸市内の烏原 (1♀, 28-V-1942, 1♂, 3-V-1985), 大池 (1♂, 14-V-1961) で採集出来ている位で後は六甲山だけに多く産する。六甲山に本種が多くいることを教えて下さったのは山本義丸氏で氏御自身採集された 1♂ 2♀ (15-V-1954) を御恵送下さって六甲山頂には多くいますよと御便りを下さった。そこで翌年 1955 年 5 月 8 日に六甲山頂に出かけてゴルフ場 (神戸ゴルフクラブ) のそばで本種が多くいるのに出会い 34♂ 37♀ を採集した。その後依然として本種の県下からの記録が出ないまゝに現在にいたっている。六甲山での本種はその後どうなっているのだろうか気にかゝりつゝ機会が無く 1986 年 5 月 12 日実に 31 年振りに六甲山頂のゴルフ場まで出掛けて見た。そしてやはり多くいるのに出会い安心すると共に恐らく芝生を食害していると思われるのに余り関心が払われていないのに驚いたりした。即ちゴルフ場の真ん中を横切る様にハイキングコースがある。球よけに金網のトンネルが張ってあるから芝生から飛び立った本種がその道路上に飛来してきて降りる。可成の数の個体がハイカーによって踏み殺されている。大体 30 分位飛んでいるもの降りてきたものを採集してみた所 42♂ 36♀ 採集出来た。相当の個体が発生しているようである。

静岡県下で主としてゴルフ場における芝草害虫の研究調査をされた細辻豊二・吉田正義 (1979),

吉田正義・廿日出正美（1981）の報文には本種が出てこない。これは静岡県下には本種がいないからであろう（1984年の黒沢良彦・渡辺泰明両氏の野外ハンドブック 12, 甲虫によると最近芝についてきたのか千葉県ゴルフ場で本種が発生して話題になったとあり、この様に運ばれて分布を広げる恐れはある。千葉県の記録はその後山崎秀雄氏が市川市をされている。月刊むし, №187, p.38, 1986）。たゞその中で解説されているウスチャコガネ *Phyllopertha diversa* Waterhouse の状況と良く似ている。ウスチャコガネはこの時期はもっと平地即ち播磨平野部あたりではいくらかでも見られるが六甲山頂では本種は見られなかった。交尾状態のものは観察出来なかったが恐らくこの時期に交尾をするのであろう。それと採集している時間帯が午前8～9時の間である。細辻・吉田氏も芝生でマメコガネの群飛のピークは午前8～9時と報じておられる。コガネムシ類に芝生での群飛のピーク時間帯が同じ様な状況下で見られると云うことがあるのだろうか。

ゴルフ場で作業している人に聞いて見るとコガネムシは年によって多い少いがあるが結構たくさんいますよとのことであった。本種のみならず他のコガネムシもいるように思われる。何か対策をたてようか。

とに角六甲山のゴルフ場にはいくらかでもいるのに兵庫県の他の地ではほとんど採集出来ない。ゴルフ場の数では全国で1, 2を争う位の兵庫県である。他のゴルフ場あたり芝草を害するコガネムシがもっといそうに思うがどんなものであろうか。 (AUG. 1986)

ヒメコブヤハズカミキリ神戸市北区山田町にて採集 (兵庫県甲虫相資料・177)

高橋 寿郎

六甲山系のヒメコブヤハズカミキリ *Parechthistatus gibber* (Bates, 1873) は筆者残念ながらこの所20年以上採集していない(摩耶山では33年間も未採集である)。記録の方もそれ程多く見られない。いるのはいるはずであるが狙って採集出来ていない。出会いのチャンスが極めて少い種のようなのである。

1986年6月4日久方振りに神戸市内で本種を採集したので報告しておきたい。採集した場所は神戸電鉄谷上駅から谷山川にそって殿ノ手池に到る舗装道路上を午前8時頃歩いていた1♂である(右触角の9節から先欠如)。六甲山系とは云えないが所謂丹生山系金剛童子山の麓にあたる場所でこのあたりの地域からの記録としては勿論始めてのものである。 (AUG. 1986)